



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2010.1.20 (No.2577) 週報 No.26

第2560地区ガバナー／植木 康之
 会 長／菊池 涉
 会長エレクト／榊山 仁(クラブ奉仕A)
 副 会 長／山田 富義(クラブ奉仕B)
 幹 事／松永 一義
 S A A／成田 秀雄
 会 計／石月 良典

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (～はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

■本日の出席会員数:56名中39名
 ■先々週出席率:88.0%

【ゲスト】

・第2560地区パストガバナー
 馬場信彦 様

【ヴィジター】

燕RCより

・燕RC会長 船山英幸さん
 ・50周年実行委員長 皆木昭夫さん

【先週のメイクアップ】

[1.14] 加茂RCへ

・西川文夫さん、渡邊喜彦さん、
 ・加藤紋次郎さん

[1.15] 吉田RCへ

・西川文夫さん、渡邊喜彦さん、
 ・加藤紋次郎さん



「ロータリーの未来は、
あなたの手の中に」

2009～2010年度国際ロータリーのテーマ

季節のお花 (ぼたん)



会 長 挨拶

菊池 涉 会長



ご挨拶申し上げます。

先週は寒波で一面真っ白になりました。雪かきはイヤなのですが、雪が降ると少し嬉しいのです。まず第一に人が尋ねてこない。それに私が怠けてお経を読みに行かなくても「こんなに寒いのでは無理からん」と許容してくだされる。こんなことやらで、

怠け者の私には少し嬉しいのです。

夜、書齋の窓から外をみると、外が明るい。本寺小路の明かりが雪で倍増されて明るい。そんな夜をみておりましたら、北欧の「白夜」を連想いたしました。

ドストエフスキーに「白夜」という短い小説があります。いとしく愛さずにはいられない、白夜の、たった四夜の小さな物語です。

舞台はペテルブルク、時は夜更け、小さな橋のたもとに佇んでいる娘の傍らをひとりの青年が通りかかる。何事もなくすれちがうはずなのに、ふと少女のすすり泣く声を青年は耳にして立ち止まる。

孤独で途方もなく空想家の青年は、なかなかのインテリであるが、今まで誰一人話し合う相手もなく、無論友人も恋人もない。今日もひとりで歩き回り、すっかりいい気分になって口笛を吹きながらこの橋にさしかかる。貧しい生活、天上に蜘蛛の巣はっているにも取ろうとしない、少し抜けた女中と二人暮らし。

一方、少女の両親は既に亡く、盲目の祖母と老いた女中と

ひっそりと暮らしている。娘が大きくなっていたずらをした時、おしおきだと言って祖母は自分のスカートと娘のスカートをピンで留めてしまった。年頃になって娘が自分から離れていくことが怖いのか、娘は籠の鳥の如く、祖母が眠っている間しか外に出られない。

単調な寂しい毎日、どこか似かよった二人である。二人は惹かれ合い、思わず翌晩もこの橋の上で会う約束をする。

青年は夜も眠れない。翌晩早くからこの橋の上で娘を待っている。やっと娘はやって来て、意外な身の上話しをする。娘はかつて下宿人だった男を恋している。一年後、この橋の上で再会する約束になっている。それが今夜なのだ。

青年は落胆するも、娘の心情に心から同情して、共に恋人の来るのを待っている。しかし恋人は来ない。娘は待ち焦がれ、青年に訴える。青年は娘に手紙を書くことを勧め、二人はひたすら待つ。しかし男は来ない。

次第に娘は青年の優しさに惹かれ、寄り添うようになる。青年は、夢か、夢ならば覚めないで欲しいと、二人の心は寄り添い、我々こそ結ばれるために出会ったのだと、もう離れることができないと、一緒に棲もうと誓い合う。その瞬間、皮肉にも橋の上に男が現れる。

釘づけになってふるえる娘。しかし娘は弾丸のように男の胸に走っていく。そしてすぐさま青年の胸に帰ってきて接吻する。娘を抱き寄せ、もう離れまいと青年は天にも昇る思いのその瞬間、娘は「さようなら」と叫んで、男の元へ消えていく。

天国から地獄へ、青年は長いことその場に突っ立って、二人のうしろ姿を見送った…。

青年は未だに夢見て娘の思い出の中にいるのです。「侮辱されたことをいつまでも根にもつ私だろうか!」「非難の言葉を浴びせて、君を傷付ける私だろうか!」とこの小さなロマンの主人公は語るのです。「ああ! 至上の法悦の完全なひととき! 人間の長い一生に比べてすら、それは決して不足のない一瞬ではないか? …」と。

この名も知らぬ(小説の中にも出てこない)青年を想う時、いつまでも閉じない夜の白さ、消えかかって消えない灯のように、思い出はいつまでも消えない、などとロマンチックな気分させてくれる雪の夜でした。

幹事報告

松永一義 幹事

◎東山ガバナー・エレクト事務所より、会長・幹事エレクト研修セミナー(PETS)のご案内が届いております。

と き 3月13日(土)
登録受付 AM 9:30~10:00
セミナー AM10:00~15:55
懇親会 PM 4:00~6:00

ところ やすね(上越市仲町)
登録料 お一人様 14,000円

◎三条市特別支援教育研究協議会より、懇親会のご案内が届いております。

と き 2月25日(木) PM6:00~
ところ ハミングプラザVIP 1階グランドホール

◎植木ガバナー事務所より、ロータリーレート変更なしと連絡が届いております。

2月1日から1ドル90円(現行)

◎2月17日(水)は、例会場(信金本店)が使用できないため、ハミングプラザVIPに変更となります。お間違えのないよう、お願い致します。

ニコニコBOX

馬場信彦パストガバナー

本日は、お招きありがとうございます。

さて、1月は「ロータリー理解推進月間」です。また、1月18日から、米国カルフォルニア洲サンディエゴ市で国際協議会が開催されます。2010~11年度のテーマが発表になりましたので、お手元にお届けしました。

皆木昭夫さん、船山英幸さん(燕RC)

4月10日(土)に、燕TC創立50周年式典を開催いたします。菊池会長様を始め、大勢の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

菊池 渉さん

晴れの日が続いてホッとしています。「寒い冬を知っている者だけが本当の春の喜びを知っている」などと、負け惜しみを言ってます。

山田富義さん

馬鹿な男ですが、宜しくお願いします。

斎藤弘文さん

馬場信彦パストガバナーを歓迎致します。

山田会員の勇気ある行動に拍手致します。

杉山幸英さん

山田さんを皆さんで応援しましょう。

藤田紘一さん

少しでも景気回復となりますように、祈念しております。

馬場パストガバナー、卓話ありがとうございます。

小越憲泰さん

昨日の新聞を見て驚きました。山田さん頑張ってください。

野崎喜一郎さん

新潟市のデパートに美術見学に行ってきた。頭の中が清らかになった感じです。

樺山 仁さん

大雪も落ち着き、楽々です。

本日は馬場さんの卓話を楽しみにしております。

捧 賢一さん

大変お世話になりました。

佐野勝榮さん

佐藤純二さんを歓迎申し上げます。

松永一義さん

佐藤純二さんの入会、心より歓迎致します。

馬場さんの卓話、ありがとうございます。

石月良典さん

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

本日、都合により早退させていただきます。

小出子恵出さん

よいことがありました。スマイルBOXに協力致します。

渡辺勝利さん、熊倉昌平さん、成田秀雄さん、若槻八十彦さん、川瀬康裕さん、五十嵐昭一さん、丸山行彦さん、会田二郎さん、西川文夫さん、明田川賢一さん、高橋 司さん、平原信行さん、武田真二さん、

馬場パストガバナー、本日の卓話ありがとうございます。

楽しみにしております。

1月20日分 ￥42,000

今年度累計 ￥682,500

<新会員紹介>



氏 名 佐藤 純二
会 社 名 (株)佐藤商店
役 職 名 代表取締役
住 所 三条市塚野目大月 2207-8
家族構成 妻、長女、次女
趣 味 スキー

卓 話

1月は、ロータリー理解推進月間です。 「ロータリーの親睦について」



第2560地区バストガバナー
馬場信彦 様 (三条南RC)

皆様、こんにちは、馬場信彦です。本日はお招きいただきまして有難うございました。国際ロータリー第2560地区2008-09年度は、ガバナー職を務めさせていただき三条クラブの皆様には大変お世話になりました。改めて厚く御礼申し上げます。また、本日の卓話は、今年の12月の初旬に渡辺会頭から会頭室で、卓話を依頼されましたので喜んでお邪魔しました。

さて、「ロータリーの年間活動期間」は、7月1日から翌年の6月30日までが1年間で、「ロータリー特別月間」は、7月と5月を除いて毎月あります。この他に「ロータリー特別週間」が11月、1月、2月、3月にあります。特に、1月27日を含む1週間は、「追悼記念週間」で、1947年（昭和22年）1月27日は、ロータリーの創始者ポール・ハリスの命日です。1989年（昭和64年・平成元年）10月～11月の国際ロータリーの理事会で、毎年1月27日を含む1週間は、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する週間として「追悼記念週間」としてしています。1月27日の例会には、ぜひ三条クラブの物故ロータリアンのために「黙祷」を捧げてください。

なお、「ロータリー特別月間」は、クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリーの活動に参加するよう強調するため、国際ロータリーの理事会で指定した月間のことをいまして、1月は、「ロータリー理解推進月間」です。会員にロータリーの知識と理解をいっそう深めてもらい、また、一般市民にもロータリーを知ってもらうための、プログラムを実施する月間です。

私なりに考えまして、激動の時代のロータリアンとして心得ておくべきことに「ロータリーの親睦」がありますので、本日のテーマは、「ロータリーの親睦について」と題して、話を進めてみたいと思います。ポール・ハリスは、ロータリーを設立して5年目の1910年（明治43年）に「ロータリーは、親睦と奉仕の調和の中に宿る」と言っています。

「親睦」とは、広辞苑を引きますと、親しみあうこと、なかよくすることであります。しかし、なかよくすることの中身は一体何かと言うとそう簡単ではありません。例えば、皆で美味しい料理を食べたり、お酒を飲んだり、旅行に出かけるのも親睦です。このような親睦は感性的な親睦といえます。

しかし、これらは楽しいことには違いないのですが、楽しんだ後に、心の中に何かうつろなものが残ることがありませんか。

では、ロータリーで一番大事な「親睦」とは一体何を意味するのか。ロータリーの綱領の第一を見てください。「奉仕の機会として知り合いを広めること」と、規定しています。しかし、翻訳では理解しにくいので意識しますと「心の友を得て、もって奉仕の契機となすべきこと」となります。ロータリアンが、世のため人のための考え方を例会に持ち寄って友情を温めあう、それが心の友を得るということであります。そして、その心の友を得た親睦の効果として、奉仕が自ら出てくるので、単なる社交クラブではないことを言っているのです。

したがって、ロータリーの親睦を感性的にとらえて、お酒を飲んだり、ゴルフをしたりすることが親睦であると思っている人がいますが、そのような感性的な親睦は、地域社会の人であれば誰でもしていることであります。もっと極端に言えば、暴力団でも、酒を飲み、ゴルフをします。暴力団の親睦とロータリーの親睦とどう違うのか。ロータリーの親睦は、感性的な親睦だけではなく、心の友を得たことが奉仕の契機となるべしでありまして、心の友を得たことがきっかけになって、奉仕と言うものがおのずから出てくるようなものでなければならない。もう少し具体的に言えば、ロータリーの親睦は、クラブの例会で己の至らざるところを他のロータリアンから学ぶ親睦、自己研鑽、切磋琢磨によってお互いに学びあう親睦、お互いに自らを高めあう親睦を求めようと言うことであります。

要するに、ロータリアンは、感性的親睦であります。お酒を飲んでも、ゴルフをしても楽しいことはなにをしてもよいのでありますが、ただ一点忘れてはならないことは、「他人に学ぶ心を忘れてはならない」と言うことであります。ロータリアンがお互いに学びあう親睦、お互いに高めあう親睦を感性的親睦に対して精神的親睦といえます。

1989-90年度〔昭和64年・平成元年&平成2年〕の国際ロータリーのヒューM・アーチャー会長は、「ロータリーを楽しもう」がテーマでした。このテーマは誤解されたと言われています。「ロータリーを楽しもう」と言うのだから、なんでも楽しければよいと言って、ゴルフをしたり、酒を飲んだりすればよいと考えた人がかなりいたようであります。アーチャー会長の心は何だったのか。それは、ロータリアンが毎週例会に集まって、お互いに己の至らないところを他のロータリアンに学び合いながら、ロータリアン達が育っていくのを見るのが楽しいね。が、このロータリーを楽しもうということだったようです。これがロータリーの親睦であり、精神的親睦であります。

このように、ロータリーの綱領の第一は、親睦と奉仕の関係で、「心の友を得て、もって奉仕の契機となすべきこと」と規定しているのであります。ポール・ハリスは、1910年（明治43年）ロータリーの本体は「親睦と奉仕の調和の中に宿る」と悟りました。すなわち、親睦だけではロータリーは成り立たない。さりとて奉仕だけでも成り立たない。親睦と奉仕が同じ次元になれば、ロータリーが生きてこないのであります。したがって、これを一言で表現すると「親睦と奉仕の調和」ということになり、これが綱領の第一「心の友を得て、もって奉仕の契機となすべきこと」の全ての意味になります。

だいぶくどい卓話となりましたが、ロータリーの「親睦」一つとっても奥が深いものと気付きましたのは、地区ガバナーをやらせていただいて、他地区の地区大会に出席する機会があり、ロータリーに関する講演を聞きびっくりしました。昔から諺に「井の中の蛙大海を知らず」がありますが、全くその通りなのだ実感しました。

2010-11年度RIテーマは「地域を育み、大陸をつなぐ」

記事： Donna Polydoros

国際ロータリー・ニュース：2010年1月18日

2010年国際協議会の開会本会議にて、「California, Here I Come」という音楽と共にステージに現れたレイ・クリングスミスRI会長エレクトが、2010-11年RIテーマを「地域を育み、大陸をつなぐ」としたことを発表しました。

このテーマを決めるにあたって、RIのこれまでのテーマを振り返った、と会長エレクトは話します。その中でロータリアン以外の人々に訴えかけるテーマがほとんどないことに気づきました。



2010年国際協議会にて地区ガバナー・エレクトへ向けて講演するレイ・クリングスミスRI会長エレクト。
Rotary Images

「そこで私は、“ロータリアン以外の人々にロータリーの目的を説明すること”と“ロータリアンに自分たちの活動の意義を再認識してもらうこと”、この2つの目標を満たす簡潔なテーマを探す決心をいたしました」と会長エレクトは説明します。「ロータリーの現在の使命を表し、私たちが得意とすることに焦点を当て、最終的に次のテーマを選びました。“地域を育み、大陸をつなぐ”です。

自身の50年にわたるロータリー経験から、地元と海外の地域社会に焦点を当てたいという思いが生じたと言います。例えば、ロータリー財団の国際親善奨学生として1年間南アフリカに留学した経験を持つ会長エレクトは、米国ミズーリ州のユニオンビルという小さな町から海外留学した初めての学生でした。

夕方の講演というテーマ発表のタイミングは、過去の協議会からは異例のことでした。これは進んで変化を受けようとする会長エレクトの姿勢を反映しています。もはやベスト・プラクティスではなくなった伝統的な慣習を見直し、適切な場合は、新しい伝統を始めるべきであるとガバナー・エレクトに奨励しました。

会長エレクトはまた、国際舞台におけるロータリーの活躍に寄与してきたロータリアンに敬意を表しました。協議会に出席している元RI会長や元役員と会い、ロータリーの歴史との結びつきを深めるようガバナー・エレクトに促しました。

Theme logos

2009-10 RI theme



[Download zip file](#)

2010-11 RI theme



[Download zip file](#)

2月の行事予定

三条ロータリークラブ例会日

日	月	火	水	木	金	土
	1 ◆三条南RC クラブ・フォーラム	2 ◆三条北RC 卓話 岡田 健 会員	3 ◆三条RC 外部卓話 骨髄バンク命の アサガオ新潟 高野由美子 様	4 ◆三条東RC 「世界理解月間」 地区国際奉仕 委員長 立川龍雄 様	5	6 ◆D 地区運営 会議 於:デュオ・ セレッソ (上越)
7	8 ◆三条南RC 「世界理解月間」 国際奉仕委員長 田代徳太郎 会員	9 ◆三条北RC 「世界理解月間」 国際奉仕 委員会担当	10 ◆三条RC 会員卓話 山田富義 会員	11 建国記念の日 ◆三条東RC クラブ休会 D 地区運営会議 於:岬館(柏崎)	12	13 ◆D 米山奨学 セミナー 於:柏崎商 工会議所
14	15 ◆三条南RC 会員卓話 齋藤嘉一 会員	16 ◆三条北RC クラブ休会 ※(記帳できます)	17 ◆三条RC 卓話 川柳作家 鈴木俊秀 様 例会場 ※VIPに変更です	18 ◆三条東RC 20~21日 「雪見例会」 於:赤倉温泉 ※(記帳できます)	19	20
21/28	22 ◆三条南RC 「AED寄贈 及び講習会」 三条市立西鱈田 小学校教諭 三条消防署員	23 ◆三条北RC 卓話 浅間一洋 会員	24 ◆三条RC 新春例会 於:みのや ※(記帳できます)	25 ◆三条東RC 「ロータリーを学ぶ」 ロータリー 情報委員会	26	27 ◆D ガバナー 連絡会 於:乃佐和 (柏崎)

※近隣RC例会変更のお知らせ! ※(記帳できます)

- 加茂RC ————— 2月18日(木) 夜例会「温泉de例会」 於 加茂産業会館 2F
- 吉田RC ————— 2月19日(金) 夜例会 於 山岸会計事務所

次週例会 2月3日 外部卓話
骨髄バンク命のアサガオにいがた
高野由美子 様

次々週例会 2月10日 会員卓話 山田富義 会員

